



くすの木



7月の生活目標：「時間を守って行動しよう」

平成28年度No. 7 (文責：徳弘)

四万十市立具同小学校 (TEL:37-3249)

一学期も残りの日を指折り数えるほどになりました。9日(土)の個人面談では、一学期をふり返って、学級担任の先生と有意義なお話ことができましたでしょうか？頑張っている点や素晴らしい点は存分に認めて褒めて、課題となる点や注意すべき点は、親子で家庭でしっかりと目と心を配って、確かな成長につなげてください。

探究的な授業づくり研究発表会 ～第2弾 国語・算数～

6月28日(火)は、5月24日(火)の理科に続いて、本校が中村西中学校と小中連携型指定校として取り組んでいる「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」〔高知県教育委員会〕の「第2年次研究発表会〔教科教育：国語科・算数科〕」でした。内容としては、国語科3授業(1・3・6年)と算数科3授業(2・4・5年)の公開と研究協議、研究主任による研究発表と講演でした。

授業では、授業者の9人が、各学年部の先生方らと知恵を出し合い、西部教育事務所の先生方らの指導助言を受けながら、研究と準備を重ねてきたプランをもとに授業に臨みました。今、求められている学力“**考え 整理し 話したり 書いたりする力**”(思考力・判断力・表現力=活用学力)を發揮し合い、“**もっと詳しく知りたい・深く学びたいという意欲 よりよく問題を解決する力**”(探究学力)をつける授業に挑戦しました。公開した授業の一コマです。



←1年3組「どうぶつひみつはっけんカードを書こう」

2年1組「100より大きい数をしらべよう」→



→四年一組「図を使って考えよう」
←三年一組「ファンタジーのお話をみんなに紹介しよう」





→六年二組「投書デビューしよう」
←五年三組「文章問題なんか「わくなくない」」



四万十市内外から集まった参会の先生方は、公開した授業や研究発表に興味津々の様子で、研究協議やアンケートからは、貴重なご意見やご感想をいただきました。

- 児童の思考の流れを大切にしていること、日々の学級づくりを大切に、子どもと共に授業を創り上げていることが伝わりました。ノートづくりや教室環境も参考になりました。
- 同じ研究指定校として、どのように取組を進めていらっしゃるかということがわかり、大変参考になりました。
- 授業についての協議内容と講演が結びついていました。これからの授業で大切なところ、広げることの意味などたくさんのが参考になり、内容が濃い会でした。大変勉強になりました。

また、講演では、次の学習指導要領の作成に関わっている齊藤一弥先生（横浜市立六浦南小学校校長）から、これからの世界・これからの日本を見通して、社会の変化に対応できる人材の育成のために、学校教育が、授業がいかに変わるべきかについて先見性に富んだ話がありました。本校の授業の良さや課題にもふれながら、**何を知っているか（知識）、何ができるか（技能）、それをどう使うか（思考力・判断力・表現力）、そして、社会や世界とどう関わりながら生きていくか**をダイナミックに考えながら授業を創っていく必要性について、お話をいただきました。

次代を担う子ども達を育て創り上げる仕事の喜びや醍醐味を感じつつ、中村西中学校と共に、さらに研究実践を進め深めていきたいという決意を新たにしました。

仲良く楽しく規律ある修学旅行から平和折鶴集会へ…

6月5日（日）～7日（火）の3日間、6年生は広島・岡山・香川方面の修学旅行を体験しました。子ども達の素晴らしさ、成長を感じたことをお伝えします。

★すべてがスケジュール通り 気持ちよい流れの修学旅行★

今年の修学旅行は、旅行会社と打ち合わせた旅程通りに気持ちよく流れた3日間でした。出発式開始直前の秋田先生の「音を消そう！」のひとことで、さっと静かになり、式が始まったことに端を発し、それぞれの場所の集合時刻、整列や移動、見学地でのマナー等々、いつでもどこでも、きちんとした行動ができました。今、何をすべきか、次には何をするのか、集団を意識しながら動き、わがままを言わず、勝手な行動をとらない子ども達を、信頼し、安心して引率ができました。

★学ぶ修学旅行 楽しむ修学旅行★

鮮やかな現象が次々と目の前で起こり科学の世界の不思議さやおもしろさを味わった江波山気象館のサイエンスショー、解放感たっぷりの球場全体が赤（カープ）一色に染まり、盛り上がる応援に乗って、豪快で美しい野球の技術を楽しんだズームズームスタジアムでのプロ野球観戦、自動車の歴史と未来を学び、自動車が製造される過程を目の前で見、カッコいい展示車に満面の笑顔で乗り込んで写真を撮り

まくったマツダ自動車工場、あいにくの雨に見舞われながらも、思い思いのアトラクションを友達と共に楽しんだNEWレオマワールド、どの見学地でも、感動や驚き、発見や納得、楽しさや喜びを自然に表情や声に出し“学ぶ修学旅行”“楽しむ修学旅行”を満喫していました。

ゲームやカラオケに興じたバスの中、シティホテルと温泉付き和風旅館の両方の風情を楽しんだ宿泊所も、子ども達にとっては、大切な思い出のひとつになったことでしょう。



★原爆の子（サダコさん）の像に届く『青い空は』 誇れる“平和への誓い”★

具同小学校修学旅行の恒例で、全校児童で心を込めて折った折鶴、みんなの平和への願い・祈りが詰まった折鶴を、“原爆の子（佐々木サダコさん）の像”に捧げるセレモニー。子ども達の歌声「青い空は 青いままで 子どもらに伝えたい…すべての国から戦の火を消して 平和と愛と友情の命の輝きを…歌声にこめて…」が、平和公園内に美しく響き渡りました。私が引率をした4年間で最も心に響き、広い空に向かって両手を広げたサダコさんの像に平和への願いが届くかのような素敵な歌声でした。また、一つ一つの言葉をかみしめるように朗々と読んだ川村さんの「平和への誓い」は、誇りさえ感じる堂々とした語りでした。

1945年8月6日、広島に原爆が落とされました。この原爆によって、赤ちゃんから老人まで罪のない多くの命がうばわれました。たった一つの爆弾によってです。学校でみた映像と平和公園や原爆ドームを前にして感じた戦争とでは、原爆のいりよく（威力）の伝わり方とてもちがっていました。こんな戦争は、もう二度と起こしてはいけません。

今の私たちの生活は、毎日、安心してみんなが笑顔で過ごす、私達にとってはあたり前のようなとても平和な生活です。私達は、今の平和な生活が続くように、小さな争いやいじめ、けんかなどが起きないようにしていかなければなりません。私達は、いじめやけんかなどの小さな争いからなくしていき、二度と戦争の起こらない平和な世界をつくっていくことを誓います。

平成28年6月6日 具同小学校6年代表 川村



〔左〕六年一組 〔右〕六年二組
広島平和記念公園
「原爆ドーム」を背景に…



★やさしく 仲のよい子ども達★

見学地でも、船の中でも、ホテルの中でも、クラスを越え、男女も越えて、いつの間にか輪ができ、楽しい語らいと明るい笑顔が生まれる。一人ぼっちでいるな、ちょっと元気がないかな？と気づくと、さりげなく誰かが声を掛け、仲間に入れたり、意向を聞いて動きを促したり…と、63人の子ども達のやさしさと仲の良さを感じる場面が多々ありました。3年生の時からを知る私（校長）にとっては、さまざまなトラブルやいざこざを乗り越えて、一人の人間としての、集団としての成長を実感した嬉しい3日間でした。

また、褒めても、注意をしても、素直に受け入れる態度や人間性にも、6年生の子ども達のよさを感じました。きっと愛情をもって育ててくれる家庭での関わり、これまでの先生方のやさしさと厳しさのある関わりの賜でしょう。



帰校した6年生は、それぞれに学んだことを整理しまとめて、平和な世界への祈りや願いを込めた作文も書きました。そして、6月29日（水）には、全校児童が体育館に集まり、みんなで心をつなげて千羽鶴を創りあげる「平和折鶴集会」が開かれました。縦割り班で教え合い助け合いながら鶴を折る前に、6年両組の代表が作文発表を行いました。その一節を紹介します。

◆戦争という悲劇◆

6年1組 岡村

私たちは、日本で起こった「戦争」について調べるため、広島に向かいました。

まず、平和記念公園に行き、時計塔で午前8時15分になるのを静かに待ちました。8時15分になると、平和の時計塔から、悲しいメロディーがひびき渡りました。そのメロディーは、戦争のおそろしさをうたえているように感じました。次に、原爆ドームを見ました。実際、原爆ドームを見たことは無かったので、しょうげきを受けました。すごくこわれていて、もう屋根はありませんでした。原爆ドームは、おそろしかったことを現代の人々に伝えているように見えました。（中略）

戦争というものは、絶対にしてはいけません。地球の人々は、お互いに助け合って平和な未来を目指し、築いていくことが大切です。そのためには、世界中から核兵器をなくすことをしなければなりません。世界の国々が互いに協力し合うことが必要だと私は思いました。そして、私たちにできること、それは、家族や友達を大切にし、やさしい気持ちを持つことです。戦争は、けんかと同じ。私たちは、争いやけんかが起きないように、相手に対する思いやりを持った行動が必要だと、私は、平和学習をして強く感じることができました。

◆平和学習をして◆

6年2組 中川

（前略）最後に、資料館を見学しに行きました。資料館では、黒こげの弁当箱や人のかけの石など、戦争の恐ろしさが伝わってくる遺品がたくさんありました。その中でも心に深く残ったのは、人かけの石でした。それは、銀行の開店を待って入口の階段でこしをかけていたところ、カメラのフラッシュのような原爆の光を受けて、大やけどをおい、逃げることのできなかつた人が、その場で死亡してしまったそうです。

私はそれを見て、語り部さんの浅野さんの話を思い出しました。浅野さんは、「原爆の強い光や風のせいで立ったまま焼け死んでいた人もいた。」と話していました。その時、どれだけ原爆が怖いものか、改めて知らされました。その原爆にあった人は、苦しくて、苦しくてたえ切れず、地獄のようだったと思います。

私は、平和学習をして、いちはやく世界で戦争が終わり、世界中の人々が私達みたいに家族や友達と幸せにらせるようになるのが一番だと思います。そのためには、私達がこれから、命の大切さを伝えていくべきだと思います。そして、平和の灯の火が、一日でも早く消えるように願っています。



なお、できあがった千羽鶴は、天神橋アーケードで7月25日まで開かれている『中村地区平和七夕祭』に出展しています。ぜひお子さんと一緒にご覧ください。

